

奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画（第2次）の令和7年度実施結果

計画		計画内容	結果
(1)被害防除		保護地区（A、B地区）に近く農業被害が大きい地域について、被害防除対策（防護柵の設置）を実施する。	【資料 4-2】 ・第8回検討委員会において検討した防鹿柵の設置方針に基づき、奈良阪町（鼓阪地区）において、令和8年2月に防鹿柵を594.6m設置した。 ・過年度設置防鹿柵の効果検証において機能強化が必要とされた防鹿柵に対し、令和8年3月に機能強化を行った。
(2)捕獲		シカの生息密度が高い地域かつ農業被害意識が高い地域で加害個体あるいはその可能性が高い個体を捕獲する。 期間：令和7年5月27日～令和8年2月5日 地区：下記9地区のD地区に含まれる集落 猟友会奈良支部：田原地区、精華地区、東市地区、帯解地区、鼓阪地区 猟友会柳生支部：東里地区、狭川地区、大柳生地区、柳生地区 ※東市地区では、本部及び奈良市部が捕獲を実施 方法：箱わな、くくりわな 頭数（上限）：9地区で合計450頭 ※各地区の捕獲数の上限は設定していない。	【資料 4-3】 ・左記9地区で捕獲を実施し、令和8年2月5日に上限の450頭を捕獲した。 内訳 本部：20頭、奈良支部：215頭、柳生支部：215頭 オス：262頭、メス：188頭
(3)モニタリング	1)被害調査	①防鹿柵効果検証調査	対策（被害防除対策）による被害低減効果を検証するため、前年度に防鹿柵設置箇所において、対策前後の農業被害等について把握する。 【資料 4-2】 ・過年度（令和4～6年度）設置防鹿柵について、農家からの報告を受け、追加の効果検証を行った。 ・令和6年度防鹿柵について、農家による定期的な見回りにより防鹿柵設置前と比べて被害意識の低減は見られたが、フェンスの押し倒し、水路下からの侵入を確認し、被害を完全に防ぐことはできなかった。令和4、5年度防鹿柵については、シカによるフェンスの押し倒し、水路下からの継続的な侵入・被害発生を確認した。全体において、収穫時期後も侵入が継続し破損が増加した。 ・農地への執着が強く、防鹿柵の突破を学習した個体が複数存在し、防鹿柵についてはより強固な素材、構造への変更が必要と考えられた。 ・奈良阪町において、効果検証結果を地域住民と共有し、地域と連携して防鹿柵の機能強化を行った。
		②捕獲効果検証調査	対策（捕獲）による被害低減効果を検証するため、捕獲実施集落における農業被害等について把握する。 ・今年度は実施せず。
		③農業被害調査 ※今年度は実施予定なし。	シカによる農林業被害の状況把握、各地域において実施すべき対策内容の検討、捕獲実施地域の選定、対策（捕獲、防鹿柵設置等）による被害軽減効果の把握のため、アンケートによる調査を行う。 ・今年度は実施せず。
		④森林生態系影響調査 ※今年度は実施予定なし。	下層植生衰退度調査を実施し、森林内の下層植生の衰退程度を把握する。 ・今年度は実施せず。

奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画（第2次）の令和7年度実施結果

計画		計画内容	結果
(3)モニタリング	2) 生息状況調査	①生息密度調査 シカの生息状況の把握、捕獲実施地域の選定、捕獲数の設定、捕獲の効果検証のため、冬季に糞粒法調査を実施する。 対象地域：B、C、D地区	【資料4-4】 ・令和7年12月に糞粒法調査を実施した。 ・D地区全体の平均生息密度は、49.0頭/km ² （標準偏差59.5）と推定され、過年度の結果と比べて大幅に増加した。 ※参考：令和5年度D地区平均生息密度 15.5頭/km ² （標準偏差16.8）
	3) 捕獲個体調査	①基本情報調査	・個体群の基礎的な情報評価等のため、捕獲個体に関する情報（性、外部計測値）を収集する。
		②詳細情報調査	・個体群の状況把握、捕獲個体の状況把握のため、捕獲個体に関する情報の収集を行う。 ・捕獲個体数、捕獲位置、捕獲個体の性、体重、乳汁分泌の有無の記録を行い、捕獲個体から下顎、切歯、生殖器、遺伝子解析用サンプルとして筋肉片を収集する。 ・遺伝子解析、歯牙年齢査定等を実施する。
	4) 捕獲作業の記録	・捕獲作業の評価を行うため、捕獲に関する情報（わな設置地点、わな設置基数、わな稼動期間、捕獲数、捕獲位置、見回り記録等）を収集する。	・捕獲に関する情報を収集し、分析した。 ・わなの管理表を、捕獲従事者に配布、記入を依頼した。